大町カトリック教会幼稚園

1930（S5）～1945（S20）年

パリ外国宣教会により大町字塔之辻 186 番に建つ実業家の別荘が、「大町カトリック教会」として創設されたのは 1912（T2）年。当時、六地蔵周辺は畑ばかりであった。

関東大震災により教会は倒壊したが、1928（S3）年 6 月には教会が再建され、30 年には白いペンキ塗りの幼稚園（聖母園）が開園する。運営には司祭数人が当たり、子供たちの養育は七里ガ浜聖母園（訪問童貞会）のシスターたちが、毎日通って園児たちの面倒を見ていた。

開園当初は、4,5 人の子どもたちが、お弁当の入った小さなバスケットを下げて通園していたと教会の『六十年記念集』にある。

だんだん、園児たちも増え遊戯をしたり、椅子を丸く並べてお祈りもした。聖堂の裏には藤棚があって満開の花を楽しみ、砂場では砂遊び、4 人乗りの白いブランコもあった、と思い出は続く。

昭和 10 年代に入ると、日本は日中戦争、第二次世界大戦に突入する。外国人司祭の苦悩は深まり、敗戦の色濃くなる中、高齢の司祭も箱根強羅の捕虜収容所に軟禁される。

敗戦の数か月前、海軍当局の命令により、幼稚園は閉鎖された。